



香川県防災士会 会報



第13号 2013.1

防災士の皆様、お久しぶりです。

今年は「癸巳（みずのとみ）」

「巳」という字は、胎児の形を表した象形文字で、蛇が冬眠からさめて地上にはい出す姿を現しているとも言われ、「起こる・始まる・定まる」などの意味があるそうです。

蛇は、執念深いとされていますが、恩を忘れず、助けてくれた人には恩返しを行うと言われていいます。また、生命力が強く脱皮を繰り返することから「復活と再生」を連想させます。

多くの災害が続いた各地の「復活と再生」を願い、香川県防災士会も、昨年の活動を基に新たな活動を「起こし・始め」、地域に根付いた（「定まった」）活動に発展させていけるよう、一層のご協力をお願いいたします。

本年も、よろしくをお願いいたします。

♪今回は、活動報告(3件)・自己紹介(1名)です♪
＜平成24年学校防災アドバイザー事業＞

【高松西支部 和田 雅和】

1 避難訓練の状況

①地震発生時の初期行動を確認した結果、一部の児童であるが、適切な机の下に潜る方法の不備が見られたこと。(全児童に対して適切な方法を教える必要がある。先生自ら手本を示し、訓練時と一緒に実施)

②ヘルメットのかぶり方の不備が多く見られたこと。(ヘルメットのかぶり方は、あごひもをキチッと締め、耳にひもを掛けるにより機能する。先生もヘルメットをかぶる必要がある。)

③避難時の一部「おはしも」ができていなかったこと。(徹底した指導が必要である。)



2 避難経路

①2階廊下の中央に紙ポストを置いており、避難時の通行障害となること。(通行障害物を撤去し、児童への指導で対応する。何らかの必要性があるとすれば床に表示する。)



②1階の下駄箱部にメダカ鉢があり、通路幅が極端に狭くなっていること。(避難経路に支障を来さない箇所へ移動と可能であれば固定も検討する必要がある。)

③屋外でのマンホール部は地震による液状化等による危険箇所となる恐れがあること。(事前に箇所を確認して置き、避難時での安全誘導の対応に努める。)

3 第2次避難場所

①教室の廊下にいっぱい避難しており、窓ガラスに接していること。一部通路で避難していること。

(強化ガラス<BSC>であるが、万一のことを考え、離れた位置に避難するとともに、通路確保に考え、教室に避難することも検討する必要がある。)

4 教室、保健室等

①物置等が各箇所に見られたこと。(地震時における転倒あるいはガラスの飛散が発生するため、固定する必要がある。)

5 保育所

①児童及び職員の頭部保護無しであること。(頭部保護の検討が必要である。)

②津波避難での階段部の避難状況では、大変苦勞していること。(迅速に避難するために、高学年、保護者、近隣の地域住民等の人的支援を検討する必要がある。)

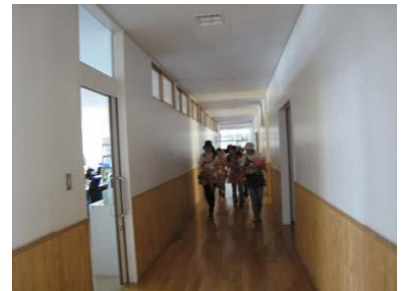
6 その他

①階段部の手摺りが両側及び片側設置となっていること。(保育所児童は手摺りをもって昇降しており、できれば両側にしてはどうか。)



(1) 在校中の対応

- ① 避難通路の常時における安全確保
- ② 児童への避難時の留意点は、危機管理マニュアルに基づき日頃から徹底し、必ず対応するように教育・実践的訓練する必要がある。



(2) 避難場所における備蓄品の備え

- ① 地域の自主防災組織等と連携し、今後、避難場所における備蓄品の備えを検討する必要がある。
- ② 併せて、在校中での備えも検討する。

(3) 災害対策本部の場所と体制の充実

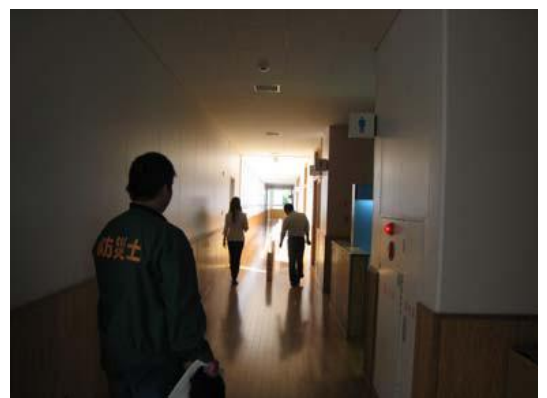
- ① 校長室、職員室等が1階にあり、津波浸水の影響から3階に移す検討が必要と考える。
- ② 教職員の出張、研修、人事異動等がある場合は、危機管理の対応ができなくなることを想定し、必ず、サブを張り付けた体制の充実を検討する必要がある。

(4) 避難場所及び避難経路

- ① 津波避難場所は、本校の外に23箇所(2階以上対象)が高松市指定されているが、今回の南海トラフの巨大地震では、3階以上に避難が必要になることから見直しの検討が必要である。
また、本校に地域住民が避難してくると収納できない課題が想定されるため、地域の自主防災組織等と連携し、その対応を検討する必要がある。
- ② 指定避難場所、一時避難場所までの避難経路について、今後、安全箇所、危険箇所等を調査した防災マップに沿った防災訓練を実施する必要がある。
- ③ 避難場所の防災特性[地震(耐震)、津波(高潮)、河川浸水、土砂]に沿った避難と最大避難可能人数の検討が必要である。

(5) 保育所の体制と連携

- ① 本校に沿った危機管理マニュアル(見直し)を参考として作成する必要がある。
- ② 130名を越える児童に対して、職員数が27名で本校まで個々に手数のかかる課題がある。そのためには人的支援のあり方と、特に避難経路の安全点検の検討が必要である。



<みんなの消防フェスタ2012・防災士シンポジウム(松山市)>

【久保 雅和】

2012年11月23日松山市において標記フェスタおよびシンポジウムに米澤中讃支部長と出席しました。このシンポジウムの趣旨は2つあり、①松山市「防災士シンポジウム」-松山市の自主防災組織率が100%になったことと②松山市だけで1550名を超す防災士が誕生したことで開催。

防災士シンポジウムでは全国防災士活動事例紹介として青森市の工藤淳防災士、徳島市の金山利勝防災士、久保 雅和防災士会が各県の活動事例をPPTで紹介。

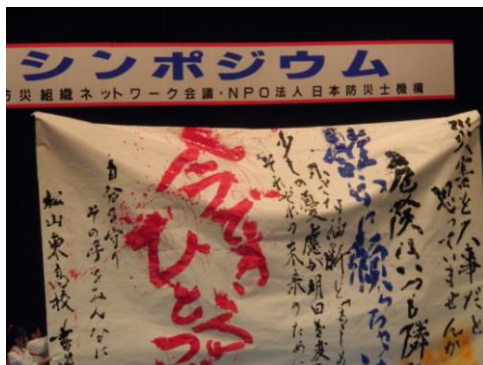
活動事例報告後パネルディスカッションではテーマ「東南海・南海地震に備える～3.11の教訓」と題してコーディネーターに・愛媛大学防災情報研究センター(矢田部 龍一センター長)パネリストとして

- ・宮川 知雄(NPO法人日本防災士機構理事長)
- ・白方 雅博(松山市ボランティアセンター長)
- ・吉金 茂(松山市自主防災組織ネットワーク会議会長)
- ・小国 恵子(松山市森松町防災会 防災士)・久保 継二(松山市消防局長)

が活動実態と今度の取り組みについて議論されました。

感想として、防災士は愛媛県4500名、松山市 1550名の有資格者がいるが組織化されていないため活動が各個人バラバラで活動の実態があまり見えてない。今後の発展に期待するところです。

また全国で初めて愛媛県知事の中村時広が防災士の資格を習得、当日サプライズとして知事に認定書が渡された。



＜日本防災士会西日本支部長会議(大阪)に参加して＞ 平成 24 年 12 月 14 日:新大阪マルビル 609 会議室

【久保 雅和】

以前は全体で開催されていましたが支部が多くなったことから、平成 23 年度から西日本、東日本に分けて開催されることになり、2回目の出席であった。

この会議には岐阜県から熊本県の各支部代表が集まり浦野理事長の挨拶の後、出席者の自己紹介で始まり、日本防災士会の事業計画及、決算報告及今後の防災啓発活動・訓練の推進、支部連絡協議会・支部活動の発展についてなどの提案があり質疑応答が行われた。

質疑応答では各支部から有資格者の名簿の提供を依頼する意見があり、日本防災士会として防災士機構に意見をしているが今後一層名簿の提供をお願いしていくとの回答があった。

各支部の発表事例が紹介され愛知、大阪、高知、長崎県支部の活動報告の指令を発表した。全体としては発表の各支部の活発な活動が報告され、防災は官との連携や支部間の会員スキルアップ研修、小中学校生の防災教育ではワッペンに修了証書を用いるなど工夫している活動が見られた。役員として備えておきたい「和合協力」などが紹介された。

活発な活動事例が紹介されたが一部の支部では全体で取り組んでいる様子が見られなかった。

また、学校防防災アドバイザー派遣事業に取り組んでいる県は神奈川県、富山県、大阪府、長崎県、香川県であった。



白ひげ
会長



今後の行事予定

- 1/29 三木町地域防災リーダー育成セミナー(東讃支部参加)
- 1/30 香川地域継続検討協議会主催 第6回勉強会 (要参加申込)
＜問い合わせ 香川大学危機管理研究センター 谷様 TEL:0897-864-2544＞
- 2/3 市民防災セミナー『南海トラフの巨大地震に備える』(当日参加可)
イオン坂出 5階ホール
- 2/10 かがわ自主ぼう連絡協議会研修会 サンビレッジ土器川(丸亀市川西南307)
＜問い合わせ 川西コミュニティーセンター TEL:0877-28-5519＞
- 2/20 第5回 香川大学危機管理シンポジウム「大規模災害に対する備えの現状と課題」(申込当日参加可)
- 4/27 平成25年度 香川県防災士会総会
香川県社会福祉総合センター 7階大会議室